

2025年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2026年 3月 6日

学校法人新渡戸文化学園

新渡戸文化子ども園（幼稚園）

1. 本園の教育目標

「自律型学習者を育てる」という学園目標のもと、自己肯定感を育み、さらに自分の考えを持ち、他者と協力して生きるための基礎を養うことを目指した保育・教育をおこなう。

- ・不思議を発見する。生き生きと興味を持つ。自分の好きなことを見つける。
- ・自分で考える・気づく・表現する・探求する・やってみたいという意欲を持つ。
- ・子ども自身が困難な事に対して、自分で考えて自ら問題解決が出来る。
- ・人との関わりの中で、他者を尊重する気持ちを育む。自分も人も大事にする。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 遊び込みを通じて、子どもの探究心を育む
- ② 教育の質向上のために、教職員の園内・園外研修の充実を図り、学びの共有と実践に努める
- ③ 保育ドキュメンテーションを保護者へ発信し、日常の様子を伝える
- ④ 給食だけでなく、野菜の栽培や収穫体験、季節の食材への興味・関心を高める、調理活動やコンポスの活動等を通じた総合的な食育に取り組む

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	遊び込みを通じた探究	B	廃材活動、感触遊び、自然物を用いた活動などを通して、子どもの興味関心を起点に遊びを広げ、深める実践を行った。研修で学んだ探究的視点を日々の保育に取り入れようとする姿が見られ、年中・年長では長期間にわたって探求が継続した。一定の成果があった。一方で、継続性や環境構成については今後の課題も明確になった。
②	教職員の研修充実・学びの実践	B	全職員が園内研修や園外研修、他園への視察で学びを広げると共に、教員間のディスカッションを実施し、他学年理解や保育観の共有が進んだ。学んだ内容を保育に活かそうとする意識が高まり、実践につながる場面も見られた。若手職員の発信や学びの共有方法については、さらなる工夫が必要である。
③	保育ドキュメンテーションによる発信	B	ドキュメンテーションを通して、子どもの姿や育ちを保護者に伝えることができ、安心感や信頼感につながった。個々の姿を観察することで園児理解につながり、日常の保育と探究的な活動の違いを意識するきっかけにもなった。一方で、情報の受け取り方には家庭差があり、発信方法の工夫が課題として挙げられた。
④	総合的な食育活動	B	栽培活動、収穫体験、クッキングなどを通じて、食材に触れ、匂いや重さを感じる経験を積み重ねた。収穫から調理・喫食までを園内で完結させる活動により、食への関心を高めることができた。経験の積み重ねをどのように定着させていくかが今後の課題である。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	各評価項目について、教職員一人ひとりが意識をもって日々の保育に取り組み、子どもの姿の変化や職員自身の学び・成長が見られたため。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
①	遊び込みを通じた探究	子どもの言動を記録・担任間で共有し、切れ目ない探求を目指す。探求が広がるための環境設定（教材やコーナー等）の定期的な見直しを行い、切れ目なく探求が進むよう努める
②	教職員の研修充実・学びの実践	プロジェクト保育・探究保育に関する研修機会を増やし、若手職員も意見を発信しやすい場を意図的に設ける。
③	保育ドキュメンテーション	配信方法の改善を検討する
④	保育の安全と基礎的な力の育成	危機管理意識を高めるとともに、外遊びや日常動作を通して体力面・生活面の自立を支える保育を工夫する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

「遊び込みを通じた探究」については、常に子どもたちの興味や「やりたいこと」に寄り添い、非常に質の高い取り組みを行ってくださっていると感じています。我が家の娘も園で野菜探究を行っていますが、感想や発見を家で話してくれたり、自分で気づいたことを「次の探究の時間に提案してみる」と意気込んだりと、探究が日々の園生活に自然に溶け込んでいることを実感しております。また、先日の寒い日に氷の実験を急きょ取り入れてくださるなど、季節や子どもの関心に合わせた柔軟な対応も、保護者として非常に高く評価しています。

「今後取り組む課題」にあげられていた「研修の充実」について、私たち保護者も、先生方が具体的にどのような研修を受け、学びを深めていらっしゃるのかを知れる機会があると良いと感じます。また、そうした先生方の学びが日々の保育にどう活かされているのかを、園だより等で発信していただければ、園の活動をより立体的に理解できると感じております。